

Aコース

①神明神社

仙台市営バス四郎丸線、東中田市民センターバス停近くにあり、祭神は天照大神と豊受姫大神で国家安泰、五穀豊穣、家内安全を祈願してある。はじめ中田村神社に合祀されてあつたが菅井家により現在地に遷座された。

②四郎丸公会堂

大正6年（1917年）91年前の5月四郎丸分教場として神明神社の向かいに建てられ昭和40年（1965年）4月四郎丸小学校開校とともに廃校になり、その後四郎丸公会堂として利用されている。

③菅井邸

四郎丸城に居城していた名取四郎は伊達家の内紛により、天文元年（1532年）伊達種宗の家臣、菅井内膳景国（11代）により減ぼされ景国が四郎丸城の領主となる。以後四郎丸、袋原は幕末迄代々菅井家が統治している。菅井家の墓地は四郎丸善徳寺にある。

④弁天団古墳

四郎丸字昭和浦（善徳寺の西方）の田園の中にある円墳、所有者は古墳の北向かいの菅井氏。古墳の上に太く大きい松の木が一本生えている。根元に祠があり弁天様が祀られてある。古墳の大きさは高さ1.8m東西7m南北6m、この地域の小字名は弁天になっている。

⑤善徳寺

四郎丸にあり曹洞宗に属し仙台市宮沢の末寺になっている。往古は天台宗で慈覚大師の開山で始め善応寺と号したが享保4年（1719年）藩主綱村（4代）の廟号（みたまやの称号）を善応殿と定めたので善徳寺に改めたと言われている。本尊慈覚作の聖観世音菩薩である。境内には中興開基（おどろえていたものが再びさかえる）の菅井家代々の墓碑がある。墓碑には元和以後（1615年）のものである。また寺の南方の参道沿いに俗に左近の桜、右近の桜と称する二株の桜樹の古木があつたがいまはない。藤原秀衡の臣、名取四郎はここへ館を居城したのが「四郎丸」の地名となり現在も親しまれている。四郎丸という地名は全国で8ヶ所だけである。

⑥蓮光寺

四郎丸の戸の内にあり新寺小路、成覚寺の末寺で浄土宗に属し、本尊は阿弥陀如来である。開山当時は曼陀羅山長福寺といわれたがその後、蓮迎寺となり明治43年蓮光寺と改める。境内には藩士熊谷喜膳直澄（愛宕無想流の創祖）の墓があり熊谷直澄は天明の頃（1780年）の人であり武芸家であった。日芸に心を寄せ愛宕神の夢想を得て一派を創め愛宕無想流又は一是流と称した。元和3年（1617年）経蓮社良寿和尚の開山で昔は尼寺であったという、境内に聖天堂があり堂前には名木舞鶴の松がある。鶴が羽根をのばし飛び立つ姿をしている。

⑦子育延命地蔵

四郎丸地蔵前にあり昔、我が子を幼くして病気で亡くしてしまうことが多かつたので元気に健やかな成長を願い建てられたもので近隣の方々は子や孫のことを思い手を合わせお参りされている。

⑧馬頭観世音板碑

この地域では田や畠を耕すのに馬をつかつた。馬は大変大切にされ、人と一緒に母屋に入れ飼う農家もあったといわれている。馬頭観世音の板碑は四郎丸、袋原4～5ヶ所見られるようである。（馬の保護神として特に江戸時代に広く信仰された。）

⑨城丸明神古墳（大宮古墳）

浜街道筋で四郎丸字大宮にある高さ2.2m、直径23mの円墳である。古墳の上には「西はなかだ東はゆりあげ」と記した足尾山石碑の道標もある。東側と南側が削られていて、まわりが少し窪んでいて、もと溝（古墳のまわりの掘）のあつたことを示している。古墳の上に建つ城丸明神は昭和21年（1946年）大崎市古川荒谷の斗虫（とけい）稲荷神社の分霊を勧請して創建された。（古墳は東北地方でも8世紀末頃には造られなくなつたといわれているのでそれ以前からこの付近は開けていたことになる。）

Bコース

①九ヶ村掘

九ヶ村とは柳生、前田、袋原、四郎丸、上余田、下余田、高柳、牛野、小塙原のこと、この九つの村を流れている掘を九ヶ村掘といっている。四郎丸の落合で名取川に注いでいる。もともとは用水路で名取耕土の田畠を潤していた。用水路には自然堤防があり現在その名残をとどめているのが四郎丸小学校の北側の道路である。

②大日如来堂・子育地蔵堂（袋原小平）

むかし袋原の小平に三海院という寺があった。その寺の境内に子育地蔵と地蔵菩薩を祭つていて後に大日如来を合祀した。昭和7年（1787年）別当の清海がこれを再建したという記録が残っている。（子育地蔵大日如来の由来記から）村はずれのお地蔵さんがよだれかけをつけたり頭巾をかぶせもらっている。これは村の人たちが子供が丈夫に育つように祈つたり安産を祈願するために続けている。

③首無地蔵

袋原字小平の大日如来堂の近くに毎夜妖怪が出て通行人を悩ました。ここは杉がうっそうと茂り昼なお暗くうなり声を発し道行く人々の前にたちふさがったという。そこで仙台藩の足軽、三尺左五平に妖怪退治を依頼した。左五平が現場に行くと血なまぐさい臭いが殺氣をおびていてうなり声を発している。彼は一気に切りつけた。翌朝現場に行くと石地蔵の首がゴロリと落ちていた。つまり左五平に切られたのは地蔵の首だったのである。

④徳袋寺（とくだいじ）

袋原字小平にある元禄年間（1690年後）に開山され真言宗で本尊は不動明王である。村の人はこの寺を小さいお寺、宝林寺を大きいお寺と呼んでいた。名取市の弘誓寺の末寺で現在無住職寺になり現在は弘誓寺に合併された。

⑤宝林寺

袋原字内手にある文亀3年（1503年）の開山で真宗大谷派に属し妙音山と号する。本尊は阿弥陀如来で慶長年間（1596～1615年）に仙台市新坂町の称念寺の住職道願和尚が中興した。宝林寺には古木や名木が多く仙台市は昭和52年に市制施行88年を記念して市内の古木、名木88本を選んだ。宝林寺には「きやらぼく」（樹齢400年以上）「ちやほひば」（400年）「さるすべり」（150年以上）の3本が指定された。

⑥明川寺（四郎丸前沖北）

創建元和元年（1615年）398年前で曹洞宗大源派、本尊は釈如來で脇仏文殊普賢で両菩薩を左右に安置してある。仙台市市名坂の正保中（1644～1647年）玉祝和尚の開山で天保3年（1683年）大安寺二世通石補天和尚が中興して店舗5年5月再建にかかる。明歴3年（1657年）356年前4月19日を開山忌としている。初め熊野山と号していたが現在の本道は平成19年11月に新しく建てかえた。

⑦光西寺

四郎丸にあり創建元和2年、真言宗で本尊は不動明王、名取市植松弘誓寺の末寺で享保13年（1728年）記同寺縁起碑文に依れば同寺の総代であったSugai陽之進の祖、重国が元和中、大阪夏の陣から帰つて後、父母の菩薩のため秘密真言の道場を建立して法明山成就院と号した。時に萬治3年（1660年）12月5日とあるが「名取群誌」には元和2年（1616年）宥海法師の開祖とある。

⑧菅井家・菅井梅闇の生家

菅井梅闇は天明4年（232年前）四郎丸渡道に生まれ幼少の頃から画を好み成人してから中国文人の高い精神性を理想とし、その画法を自らのものにしようと努力した。梅闇は特に長崎で文晃谷清人江稼圃に直接師事した。特筆することは画譜（絵手本）だけに頼らず本格的な画技の習得に努めたことである。帰郷後は仙台藩に仕え山水画に長じ特に「墨梅」は天下随一とされ全国的にも高い評価を得ている。菅井梅闇・東東洋・小池曲江・菊田伊州の四人を「仙台四大画人」と呼んでいる。

Cコース

①藩政時代最後の敵討ち

四郎丸落合に名取郡（市）における藩政時代最後の敵討ちの場所がある。嘉永年間、松山に石見綱元という領主が猪鹿狩りを領内で行い終わって祝宴を張つていた。その中に瀬之吉兄弟があり酒癖が悪く同僚とけんかをした。高城の百姓徳之助が仲裁に入ると瀬之吉は徳之助を切り殺してしまった。そして天童に逃げた。徳之助の子、徳蔵は剣術を習い瀬之吉が閑上に商いに行くところを落合の土手で仇をうつた。付近の住民が瀬之吉を慰めるために地蔵を建てた。（地蔵尊は四郎丸字落合地内にある。）

②杉内守

落合観音堂の東、名取川に沿って雑木や竹やぶが茂り畠が広がっている。古い井戸が畠の中にぽつんとある。昭和27年に堤防ができるまでは高橋さんはここに住んでいた。屋号を杉内守と呼んでいた。杉内守が伊達藩御用となつたのは正徳2年（1712年今から298年前）五代藩主吉村のときである。その110年後につくられた文政4年（1821年）の名取郡北方四郎丸村絵図には落合の集落が示されている。高橋さんの屋敷をはじめ苗畠がある。杉、松、杉林の上に「御」の敬語をついているのは伊達藩に対しての敬語（御杉、御林、御松苗林のように）である。「除屋舗」と呼ばれる店があり、その「除屋舗」には税金がかけられなかった。

③落合観音堂 四郎丸落合 県重要文化財（昭和44年8月21日）

この観音堂には昔原の下谷地の河原につくられた。ある年名取川の大洪水のため観音堂が流されたが落合の船場でたくさん「蟹（かに）」にまもられて「おみ」の坂をのぼりお寺に安置された。今でも落合の人のなかに蟹をたべない人がいます。これは蟹の恩を忘れない証拠であると思われる。また蟹の絵馬を奉納し人々の願いをたてて信仰している。観音堂は寛永4年に佐々若狭元綱が伊達政宗の命によって落合に移したといわれている。仙台巡礼33ヶ所中、31番目の札所である。寛永4年（1627年）387年前の造営で入佛導師大阿闍梨善澄、奉行茂庭防、別當大善院等となっている。別當寺は天台宗大善院であったが明治中葉以降は廢寺同然となり真言宗西光寺に属するようになった。観音さまは立像の11面觀世音菩薩で厨子に安置されている。33年に厨子の二枚のとびらを開いて参拝の方々に見せている。ご開帳という。観音さまの大きさは高さ4尺9寸（約147cm）である。ふだんは厨子の前に前拂といって1尺2寸（約36cm）の観音さまを安置している。

十一面觀世音菩薩像（県重要文化財）

由緒 木佛立像の十一面觀世音菩薩、高さ6尺2寸の木彫り立像は承和2年（835年）1173年前、慈覚大師の作と伝えられる。

蟹の絵馬（落合観音堂）

落合観音堂に奉納されている絵馬は蟹の絵が描かれている。これにまつわる伝説は他にもあるが四郎丸に伝わる言い伝えは次のような。昔そばを流れる名取川が洪水の為氾濫し観音堂も浸水し安置されている観音佛像があわや沖合に流されようとした時名取川に住む無数の蟹が観音菩薩を守り流されるのを防いだ。それ以来この地域の人々は蟹を食べず絵馬に蟹の姿を描いて奉納するようになったという。

④落合渡し場（落合渡し）

名取川と広瀬川の合流地を落合という。名取川をはさんで中田村と六郷村を結ぶものとして「落合渡し」が古くからあった。藩政の末期頃には閑上の五十集（いさば）達が列をなしてこの渡し場に集まり仙台の町に魚の行商に急いだという。（渡しのことを土地の人たちは船場と呼んだ。名取川を渡る船のあるところという意味と考えられる。）四郎丸村の飛地が名取川の対岸にあった古川という地区である。中田村長菅井重守さん（菅井家26代）ころまでは四郎丸分だったがのちに六郷村に編入された。いまから170年前に四郎丸村がつくった文政の絵図に古川屋敷として出ている。屋敷が5軒ある。大正の末ころ乗船客は4～5人あったが汽車が走るようになって宿場がすれたように船場もいつの間にか名取川からその姿が消えた。

⑤大塙山古墳（袋原）

大塙山古墳は袋原の名取川河川敷にある。屋敷跡の竹やぶや古井戸があり野菜畠が広がっている。古墳周辺には多くの人が住んでいたと考えられる。塙の高さ5m、直径8m、付近には漬物石の大きさの石がごろごろしているが葺石（ふきいし）か、石室のすでに破壊されたもののか判定に困難である。古墳の一部に近年、手を加えた石積みがみられる。洪水による流失を防ぐものかわからない。

⑥八坂神社

文治5年（1189年）819年前この辺りに流行した悪病の平癒祈願のため勧請されたと伝わっている。